

募集締切

2026

8/31(月)

主催：公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団

後援：文部科学省 環境省

沖縄県教育委員会

協力：読売新聞社



第32回

コカ・コーラ環境教育賞

Since 1994

下記のテーマで、課題解決へ向けて取り組んでいる具体的な活動・実績、研究・企画を応募用紙に記入して送付してください。

活動普及部門

テーマ SDGs12
つかう責任

募集対象・助成金

- ① 小学生およびその指導者
- ② 中学生およびその指導者

文部科学大臣賞、環境大臣賞、財団賞のいずれか

①、②、各1組 助成金 30万円

優秀賞

①、②、各2組 助成金 10万円

助成金
小・中各1組
30万円

企画・研究推進部門

テーマ
容器、水、気候変動

募集対象・助成金

- 高校生、高専生、大学生、大学院生および、これらの学生を活動主体とする非営利団体

文部科学大臣賞、環境大臣賞、財団賞のいずれか

1組 助成金 50万円

優秀賞

3組 助成金 10万円

助成金
1組
50万円

北海道へご招待

1次選考：書類審査

最終選考：2026年10月17日にオンラインでプレゼンテーション

受賞団体・個人を対象に、北海道のコカ・コーラ環境ハウスで、体験学習会を実施。

(2027年1月9-11日(予定))



お問い合わせ

詳細や応募用紙のダウンロードはコカ・コーラ環境教育賞HPから
※詳細が決まり次第、HPに掲載します。

コカ・コーラ環境教育賞

検索

第32回 コカ・コーラ環境教育賞運営事務局

✉ kankyo-forum@tokyo-ws.jp

☎ 03-6403-3114 (平日10時~17時 ※土日祝除く)

第32回 コカ・コーラ環境教育賞 応募要領

対象：

1. 小学生およびその指導者。中学生およびその指導者
2. 高校生、高専生、大学生、大学院生。およびそれら学生を活動主体とする非営利団体

※上記 1. 2. とも、団体（グループ）、個人いずれも可

対象となる活動：

- 学内での活動（授業実践、部活動、課外活動など、すべてが対象となります。）
- 学校外の活動（個人や家庭単位での活動、児童生徒等が非営利団体主体の活動に参加している、あるいはともに行っている活動など、すべてが対象となります。）

※学級、学校単位でなくて可

※部活動の場合も全員でなく、科学部〇〇班（例）などのグループ単位で可

※応募に向け特別に実施するものでなく、学内外で日常的に行っている活動で構いません。

※**前年度（2026年3月まで）の活動や、過去から継続している活動も応募可能**です。

応募方法：

別添の応募用紙（エクセル）に記入後、8月31日（月）までにメールにてご提出ください。

提出先：kankyo-forum@tokyo-ws.jp

お問い合わせ先、ウェブサイト： 第32回コカ・コーラ環境教育賞運営事務局

電話番号：03-6403-3114（平日10時～17時 ※土日祝除く）

ウェブサイト：<https://www.cocacola-zaidan.jp/environment/env-prize/32nd/>

表彰内容：

小学生（活動普及部門）

文部科学大臣賞、環境大臣賞、財団賞のいずれか	1組	助成金 30万円
優秀賞	2組	助成金 10万円

中学生（活動普及部門）

文部科学大臣賞、環境大臣賞、財団賞のいずれか	1組	助成金 30万円
優秀賞	2組	助成金 10万円

高校生以上（企画・研究推進部門）

文部科学大臣賞、環境大臣賞、財団賞のいずれか	1組	助成金 50万円
優秀賞	3組	助成金 10万円

副賞として、北海道夕張郡の施設にて、2泊3日のコカ・コーラ環境ハウス体験学習会を実施

活動普及部門 （小・中学生およびその指導者）

テーマ： つかう責任（SDGs. 12）

活動例：

身の回りでできる「R」

リデュース：ごみやむだを減らす

リユース：繰り返して使う

リサイクル：再生利用をめざす

リペア：「修繕」して使う

リフューズ：レジ袋などを「断る」

- ・ 容器や包装のリサイクル（捨てずに「価値あるもの」に再生）
- ・ 容器や包装を減らす（レジ袋や使い捨てスプーンを断る行動）
- ・ 詰め替えや繰り返し使える容器を選ぶ
- ・ フードロスへの取り組み
- ・ ビーチ・クリーン、河川や湖沼での活動など、地域の人々を巻き込んだ回収、清掃活動
- ・ ポイ捨てや使い捨てを防ぐ啓発活動
- ・ 学校でのプラスチック、缶の回収
- ・ 家や学校で使う水をむだづかいしない取り組み
- ・ 環境にやさしい農業（低農薬のお米や野菜、花の栽培、収穫など）
- ・ 地域の特長（農産物や海産物など）に着目した活動
- ・ その他、環境保全や環境保護につながる活動など

前回受賞団体：

【活動普及部門（小学生） 最優秀 環境大臣賞】

学校法人国本学園 国本小学校（東京都世田谷区）

<地域と連携した資源の循環>



課題発見をし、自発的に行動できる本校の子ども達が身近な生活用品の資源循環を通して、CO2 排出量削減、さらにサーキュラーエコノミーサイクルの一端を担う取組を実施した。その過程で、社会課題をジブンゴトとして捉え、子ども達が発案したプロジェクトが学園だけでなく、地域や企業を巻き込み、多くの人々の意識変容を促した。

【活動普及部門（小学生） 優秀賞】

プラネットリーダーズ山内エコクラブ（大阪府大阪市）

<河川清掃・廃プラキーホルダー制作等>



プラネットリーダーズ山内エコクラブは、滋賀と大阪を拠点に、水質調査や生き物観察、清掃活動などを通じて、子どもたち自らが地域の自然や環境と向き合い学ぶ団体です。琵琶湖から淀川、そして世界へとつながる川の環境を調査しながら、地球規模の環境課題を考え、学び、発信しています。活動の原点には、「水を守ることは命を守ること」という信念があります。この信念のもと、都市部における環境問題、海プラ等のゴミ問題を上流域の仲間と連携しながら、共に考えメッセージ発信を行なっています。

【活動普及部門（中学生） 最優秀 文部科学大臣賞】

金沢大学附属特別支援学校（石川県金沢市）

＜海岸清掃・廃プラスチックアクセサリー制作等＞



「海岸にあるプラスチックや PET ボトルごみは、どこからくるのか？」を明らかにするため、2023 年から現在まで継続して SDG s 14 番の学習を行ってきた。今年度は海岸のみならず河川の全流域で清掃活動を行い、ごみの動向を探ってきた。その結果、陸域のごみが河川を流れて海に流れ出し、それが海洋ごみになること、排出の原因は、人間であることが明らかになった。

【活動普及部門（中学生） 優秀賞】

劇団シンデレラ（愛知県名古屋市）

＜環境関連のミュージカル上演・情報発信＞



「夢と希望と冒険・自然と共に生きる」をテーマとするファミリーミュージカル劇団。「生きものたちの声を届ける」「SDGs を広める」ことを目標に、森、海、湿地など自然環境の保全や「使う責任」の具体策としての「4R の推進」や脱炭素を目指した「デコ活」など誰にでもできる SDGs をテーマに、オリジナルミュージカルを多数制作・上演している。

【環境ハウス賞】 ※選考会上で発表

NPO 法人環境ボランティアサークル亀の子隊 (愛知県田原市)

〈海岸清掃・エコツアー〉



「きれいな海を守る心を広げるプロジェクト」として、「西の浜はゴミ箱じゃない!」をテーマに西の浜をきれいにするためのゴミ拾い活動を行う。西の浜クリーンアップ活動毎月1回実施。体験的環境学習「海的环境を学ぶ会」を年に数回行っている。

西の浜を通して三河湾、伊勢湾の環境を考え、よりよくしていくための啓発活動、エコツアー渥美を学び、渥美を食べようなどを企画し、バスをチャーターし、ツアーを組んでクリーンアップと学ぶ会(タッチングプール・塩づくりの会)に参加している。

前々回受賞団体：

【活動普及部門(小学生) 最優秀 文部科学大臣賞】

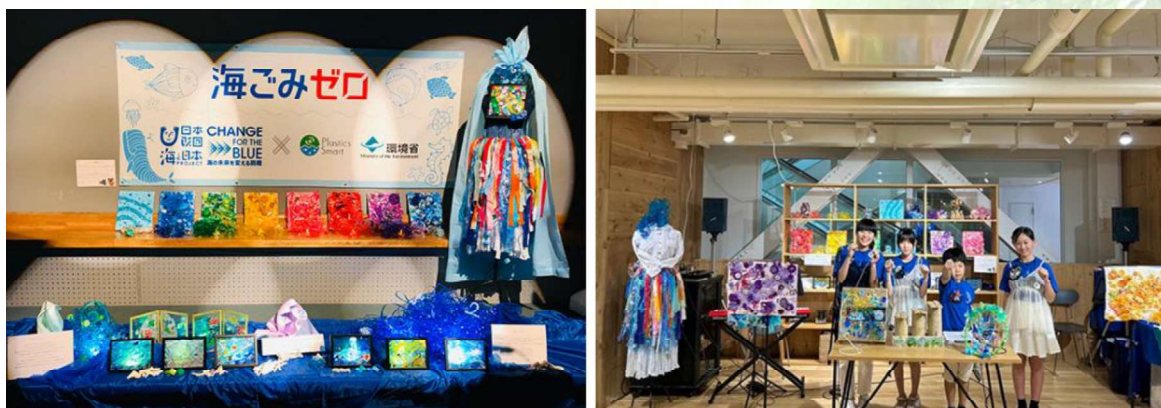
NPO 法人 SDGs Spiral (福岡県北九州市)



本活動は、障害者が主体となって今ある複数の課題を多くの人と力を合わせ解決しながら万華鏡を作るプロジェクトです。「竹林整備・森林保全」「海岸清掃」「ワークショップ」の三部構成となっており、山や海など様々な課題を同時に解決・改善しながら SDGs 万華鏡を作ります。

【活動普及部門（小学生） 優秀賞】

色響（IRO&HIBIKI）（鹿児島県鹿児島市）



明日の地球を守るために何ができるかを考える鹿児島県のグループで、小中高校生と音楽や色彩、創作、環境などの体験型ワークショップを行っています。海洋プラスチックごみ問題に取り組み、漂着物で楽器を作り、オリジナル絵本「海からのメッセージ」を制作。オリジナル音楽を作曲し演奏活動をしています。

【活動普及部門（中学生） 最優秀賞】

新渡戸文化中学校 Action for Future（企業競争ラボ）（東京都中野区）



生徒の興味や関心に合わせてグループをつくり、生徒主体で探究活動を行う「ラボ活動」。その1つ AFF ラボでは、生徒自らアポイントをとり、SDGs 推進企業を訪問。30 を超えるパートナーシップの中で、プロジェクトを発足。「森林保全」を目的としたアクションは、アワード受賞やアンバサダー就任など社会にインパクトを与える。

【活動普及部門（中学生） 優秀賞】

草津市立松原中学校（滋賀県草津市）



「ESD を軸とした持続可能な社会に向かう生徒の課題解決力の育成～地域との協働学習を通して～」をテーマとして、「松原未来学習」と「松原ローカル学習」の2本軸で、3年間系統的かつ連続性のある学習を推進している。松原未来学習とは、「Think globally, act locally」を基本的な考え方としている。昨年度、1年生では、世界の食品ロスの問題から身近な給食の残食を減らすための方策を考え、草津市に提言を行った。松原ローカル学習では、松原中学区で多く栽培されているブランド野菜である「ベジクサ」について調べ、給食の残食減少に向けて取り組んだ。

企画・研究推進部門（高校生、高専生、大学生、大学院生。およびそれら学生を活動主体とする非営利団体）

テーマ： 容器、水、気候変動

活動例：

容器リサイクル

サステイナブルな容器素材、設計

資源循環

- ・革新的な容器回収、リサイクル推進のシステム
- ・環境負荷の低い新素材・容器包装設計（環境配慮設計）
- ・資源循環、サーキュラーエコノミー
- ・水平リサイクル、B2B
- ・人々の意識向上・啓発等、行動学、社会学、人間工学的アプローチ
- ・容器に関する産官学プロジェクト、社会に広く波及する活動

水源涵養

水害対策

節水・水の再利用

スマート農業、持続可能な農業

- ・水源涵養：使える水の量、安全な飲み水（水質）を確保
- ・水使用量の削減、再利用、浄化に関する研究、活動
- ・豪雨や洪水等の水にまつわる自然災害に備え、防ぐ研究、取り組み
- ・治水（森林による土砂流出防止など）
- ・土壌改良、環境負荷の低い肥料、節水耕作など持続可能な農業
- ・干ばつや渇水対策、灌漑
- ・IoTを使ったスマート農業（データ、AI、ロボットなどの活用）
- ・温暖化に対応した茶葉、サトウキビ、果物等の耕作改良

再生可能エネルギー

カーボンニュートラル（GHG削減）

- ・太陽光、風力、水力、地熱、雪氷熱利用など自然エネルギーの利用
- ・バイオマスや廃棄物エネルギーの利用
- ・コーヒーかす、茶かすなどの有効利用
- ・省エネルギー、節電、省電に関する研究、活動
- ・脱炭素、二酸化炭素排出に関する研究、活動

前回受賞団体：

【企画・研究推進部門 最優秀 環境大臣賞】

北海道岩見沢農業高等学校（北海道岩見沢市）

<再エネ、スマート農業>



冬に降り積もる雪で雪山を造成し、その断熱材として籾殻を被覆することで夏まで雪を保存、雪冷熱として活用する。具体的には、雪山の下に通したパイプに水を流し、冷水となった水を冷媒にしてファンで冷風を創り出すことでハウス内を冷却する。また、断熱材として利用した籾殻はペレットに加工し冬場の暖房燃料として活用する。さらに、その燃焼灰はケイ酸質として翌年の水稻肥料に活用し、籾殻の循環利用による周年栽培モデルを実現させる取組である。

【環境ハウス賞】 ※選考会上で発表

AQUA HOPE（宮城県農業高等学校）（宮城県名取市）

アクアホープは「田んぼの水をきれいに！」という想いから生まれた高校生チームです。水質を常に調べ続け、肥料の使い方を工夫して水質汚染を防ぎ、未来の子どもたちにきれいな川と安全なお米を残すため、日々挑戦を続けています。



前々回受賞団体：

【企画・研究推進部門 最優秀 環境大臣賞】

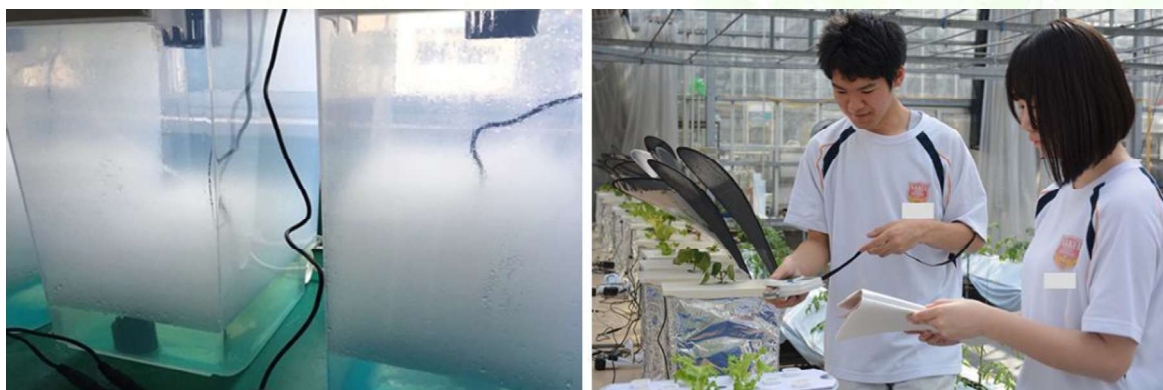
清風高等学校 生物部 アオコ班（大阪府大阪市）



絶滅が危惧されているニッポンバラタナゴ（淡水魚）を保護するために、高安の里の環境保全活動を行っている。清風中學生物部は、1999 年から、八尾市高安地域の人達の協力を得て改修した溜池（RE-1）で活動を行っている。具体的には、月 1 回、溜池で定期調査を行い、水質調査や水生生物の観察（主にケイソウ類）、清掃活動、啓発看板の設置等に取り組む。

【企画・研究推進部門 優秀賞】

青森県立名久井農業高等学校 FLORA HUNTERS AQUA（青森県三戸郡）



水不足が世界的な深刻な問題となりつつある。そこで私たちは、密閉容器と超音波ミスト発生装置を用いて貴重な水を有効利用する節水型ミスト栽培システムを開発した。このシステムの特徴は養液をミスト状にして間欠的に供給すること。給水頻度を最適化することで、従来の水耕栽培と比較して、レタスの収量を損なうことなく、約 70%の節水、約 65%の CO2 排出量削減、さらに約 84%の肥料節減が可能であることを確認した。このような節水視点に立って開発された装置や栽培法は例がなく、世界各地で役立つ技術であり、この夏スウェーデンで私たちが世界に向けて発表する。

【企画・研究推進部門 優秀賞】

沖縄県立宮古総合実業高校 環境班 (沖縄県宮古島市)



私達は、地下水保全を目指し、化学肥料由来の硝酸態窒素汚染防止を目的に有機質肥料の研究開発に取り組み実用化、年間 6,000 袋を製造し農家へ普及している。その成果は、1980 年代地下水に含有される硝酸態窒素濃度が 8 mg/L を認めたのが、現在 4 mg/L の濃度に低減した。しかし、15 年ほど前から害虫防除目的でネオニコチノイド系化学農薬が大量に使用され、地下水が農薬に汚染されている現状を確認、大切な地下水を化学農薬汚染から守る活動に挑戦している。